



FOREX WEEKLY REPORT

2017年7月24日

(株)新生銀行 市場営業第一部
SFXM-1707247443

I. 先週の動き

通貨			東京市場			海外市場			終日	
			始値	安値	高値	安値	高値	終値	安値	高値
ドル円 高値 112.87 安値 111.01	7/17	月	112.46	112.42	112.77	112.33	112.87	112.63	112.33	112.87
	7/18	火	112.63	111.99	112.68	111.69	112.38	112.07	111.69	112.68
	7/19	水	112.07	111.88	112.23	111.56	112.21	111.99	111.56	112.23
	7/20	木	111.97	111.77	112.22	111.48	112.42	111.90	111.48	112.42
	7/21	金	111.91	111.72	112.08	111.01	111.84	111.15	111.01	112.08
ユーロ円 高値 130.50 安値 128.58	7/17	月	129.04	128.96	129.15	128.76	129.46	129.28	128.76	129.46
	7/18	火	129.28	129.07	129.55	129.21	129.75	129.47	129.07	129.75
	7/19	水	129.48	129.20	129.51	128.58	129.32	128.88	128.58	129.51
	7/20	木	128.93	128.80	129.20	128.80	130.26	130.15	128.80	130.26
	7/21	金	130.16	130.05	130.50	129.50	130.44	129.61	129.50	130.50
ユーロドル 高値 1.1683 安値 1.1435	7/17	月	1.1474	1.1447	1.1474	1.1435	1.1487	1.1478	1.1435	1.1487
	7/18	火	1.1478	1.1472	1.1537	1.1511	1.1583	1.1553	1.1472	1.1583
	7/19	水	1.1554	1.1529	1.1557	1.1510	1.1539	1.1515	1.1510	1.1557
	7/20	木	1.1515	1.1504	1.1532	1.1479	1.1659	1.1630	1.1479	1.1659
	7/21	金	1.1631	1.1619	1.1677	1.1636	1.1683	1.1664	1.1619	1.1683

◆先週の動き

【7/17】週明けのドル円は、東京市場が休場で参加者が少ない中、112.42-112.77の狭いレンジ内で小動き。欧州時間に入ってから112円台半ばで動意に乏しい推移が継続した。NY時間には、弱いNY連銀製造業景気指数(9.8/予想15.0)への反応は乏しかったが、112.33(安値)まで小幅に下値を広げた。その後、ロンドンフィキシングの時間に112.87(高値)まで上昇したが、米10年債利回り低下に伴い、引けにかけては112円台半ばまで緩んだ。週明けのユーロドルは、1.14台後半からじり安となり、欧州時間に1.1435の安値をつけた。ユーロ圏6月消費者物価指数改定値(前年比+1.3%/予想+1.3%)は予想通りで大きな反応はなかった。安値をつけた後、ユーロは買い戻され、NY時間に1.1487の高値をつけ、そのまま1.14台後半で引けた。

【7/18】東京時間のドル円は、米ヘルスケア改革案について「共和党上院議員が新たに2人反対し可決困難」との報道を背景に、朝方につけた112.68(高値)から軟調推移。前日比マイナス圏で寄り付いた日経平均株価の下げ幅拡大も伴い、111.99まで下落した。その後は112円台前半で小幅推移となったが、欧州時間に入ると米10年債利回りがじりじりと低下し、それに連れて再び軟調地合いとなった。NY時間に入り米6月輸入物価指数(前月比-0.2%/予想-0.2%)が予想通り2ヶ月連続のマイナスとなると、下げ幅が拡大し111.69(安値)をつけた。引けにかけては112.00近辺まで値を戻した。東京時間のユーロドルは、米ヘルスケア法案の先行き不透明感からドル売り地合いとなる中、1.1472の安値から1.15台前半まで急上昇。その後は同水準で揉み合っていたが、欧州時間に入ると米金利の低下に伴い、再びドルの軟調地合いとなりユーロドルは上昇。NY時間に米6月輸入物価指数がマイナスになったことを受け、米金利低下が継続すると昨年5/3以来の高値となる1.1583をつけて引けた。予想を下回る独7月ZEW調査(期待)(17.5/18.0)には大きな反応無かった。



【7/19】東京時間のドル円は、翌日に日銀政策決定会合の決定発表やECB理事会を控え動意薄く、111.88-112.23(高値)の狭いレンジ内で揉み合い。欧州時間に入ってからレンジ内での推移が継続した。NY時間には米10年債利回りの低下に連れて111.56(安値)まで小幅に下押ししたものの、その後は同利回りが反転したことで112.00近辺までじりじりと値を戻して引けた。予想を上回る米6月住宅着工件数(121.5万戸/予想116.0万戸)への反応は乏しかった。東京時間のユーロドルは、翌日にECB理事会を控え、朝方につけた1.1557を高値に軟調な地合いとなった。欧州時間にビルロワドガロー仏中銀総裁の「ECBはデフレリスクを打破した」との発言を受け1.1515-1.1539レンジで下げ止まる局面もあったものの、NY時間には再びユーロが軟調地合いとなり、1.1510(安値)まで下値を広げて引けた。ユーロ円はドル円とユーロドルの軟調地合いを受けて、東京時間の朝方につけた129.51(高値)から、欧州時間まで継続的に下落。NY時間に入り、ドル円が急落するとそれに連れて129円を割れ、128.58の安値を現示した。その後は128円台後半の推移となった。

【7/20】東京時間のドル円は、寄り付きから上昇を続けた日経平均株価に連れて112円台を回復。東京時間午後も、発表された日銀の展望レポートにて2%の物価目標達成を2018年度から2019年度に先送りされたことを背景にじり高の流れは継続し、その後の黒田日銀総裁会見では目新しい材料は無かったものの、堅調さは変わらず、欧州時間に112.42(高値)をつけた。その後はNY時間にかけて112円台前半で小動きとなったが、「モラー特別捜査官、トランプ氏のビジネスに捜査範囲を拡大」との報道を受け111.48(安値)まで急落。引けにかけては112円ちょうど近辺まで値を戻した。東京時間のユーロドルは1.15台前半で狭いレンジでの動きとなり、欧州時間に入ってからECB政策発表までは様子見から同水準での推移が継続した。その後、ECB主要政策金利は予想通り据え置きとなり、超緩和的な政策スタンスも維持されたことから1.1479(安値)をつけたが、ドラギECB総裁の会見での発言「フォワードガイダンスの変更については秋に協議する」を受けて1.15台後半まで大きく反発。NY時間にトランプ米大統領に関する報道を背景にドル売り地合いとなり、ユーロドルは再度急伸。2015/8/24以来の高値1.1659まで上値を伸ばした。NY市場の午後は1.16台前半で横ばい推移のまま引けた。ユーロ円はECB政策発表までは129円を挟んだ動意の少ない様子見相場だった。ECBの超緩和的な政策スタンス維持発表すると安値128.80を付けたが、ドラギECB総裁の会見を受けて反転。130.26の高値まで急伸した。

【7/21】東京時間のドル円は、目立った材料に乏しい中112.08(高値)-111.72の狭いレンジ内で小動き。その後欧州時間にかけては、前日のトランプ米大統領のロシアに関する報道が引き続き意識される中、米10年債利回りの低下も伴いじり安となり、111円台半ばまで下落した。NY時間に入ってから原油安に伴う米株軟調からドル下落地合いが継続する中、スパイサー米大統領報道官の辞任が報じられたことを背景に111.01(安値)まで下げ幅を拡大して引けた。東京時間のユーロドルは、午前中に1.1619の安値をつけた後は、1.16前半で小動き。欧州時間に入る直前に一時1.1677までユーロが強含む局面もあったもののすぐに値を戻し、1.16台半ばで膠着となった。NY時間に入るとスパイサー米大統領報道官の辞任を受けドル安地合いとなる中、1.1683の高値をつけて引けた。

II. 今週の予想

通貨	今週予想		コメント
	安値	高値	
ドル/円	109.80	112.30	やや軟調
ユーロ/円	128.00	131.00	レンジ
ユーロ/ドル	1.1450	1.1900	堅調

◆今週の予想

先週末スパイサー米大統領報道官辞任に端を発したドル売りが継続しドルインデックス指数は昨年6月来の94を割り込み続落。ドル円も24日東京時間午前中には衆議院予算委員会閉会中審査での加計学園問題及び、防衛相日報問題に絡む現内閣への懸念から日経平均株価が2万円を割り込み、ドル円は約一か月ぶりとなる110円台後半までの続落となっており、日米共に政治懸念がドル円の重しとなろう。

今週は27日未明に米FOMC、28日米GDPが控えている。FOMCは市場予想では特段の変更無しとの見方ではあるが、週後半までは積極的なドル買いは控えられ上値が重い展開が予想される。一方でテクニカル面では一目均衡表雲下限が110円台後半から半ばに控えておりドル円のサポート要因となるか注目される。

ユーロは引続きテーパリング観測を背景に堅調地合いが続くと予想されるが、直近2か月間でのユーロの急激な上昇が欧州株式市場にネガティブ要因となりつつあり(独DAX指数は5営業日連続陰線)欧州株発リスクにも注意が必要と考える。



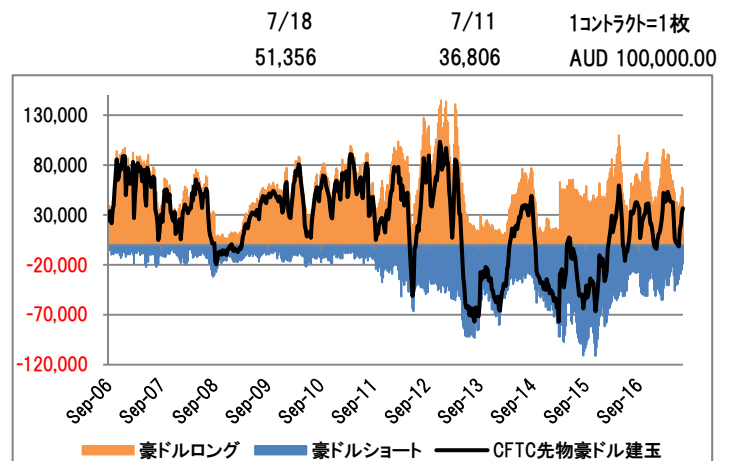
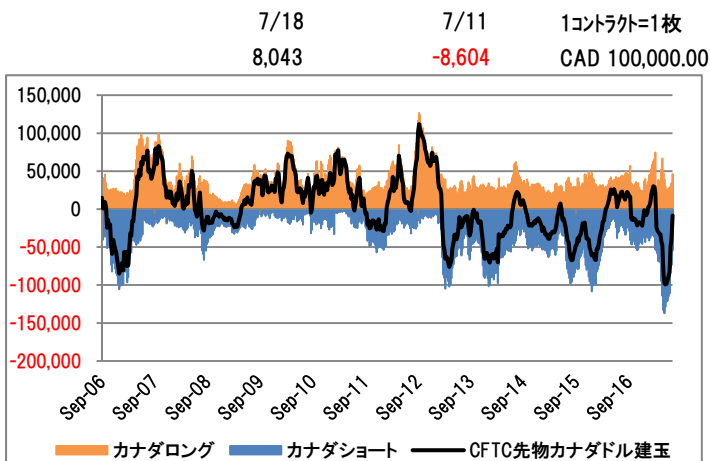
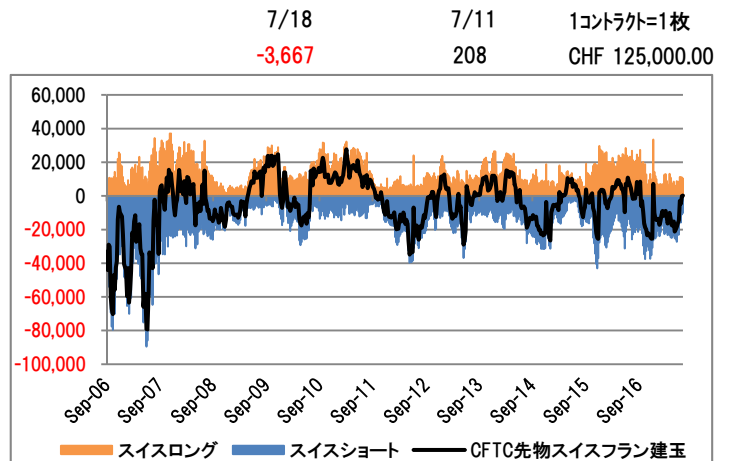
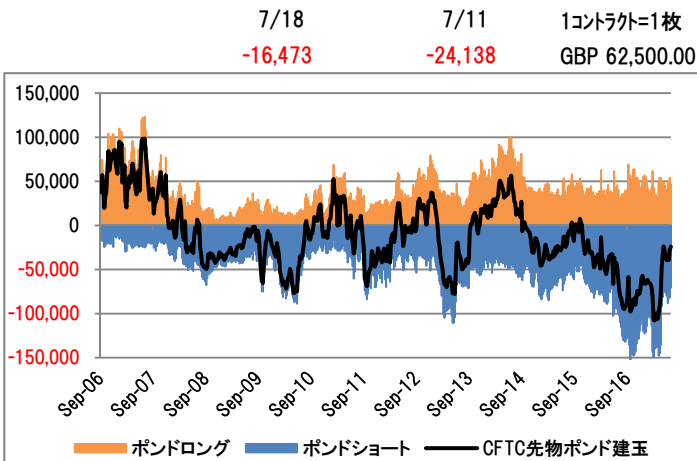
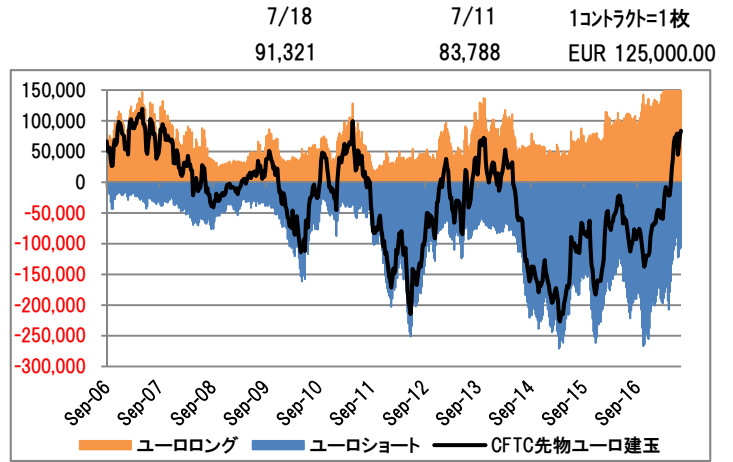
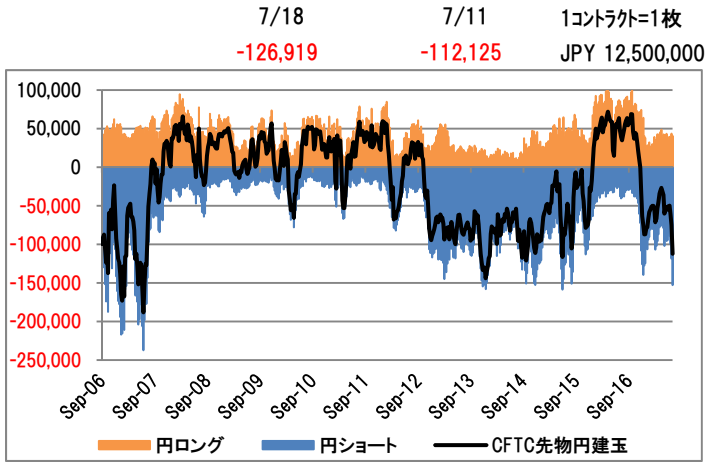
Ⅲ. 経済指標カレンダー

日付	時間	国	月	経済指標、要人発言
7月24日	OPEC加盟国と非加盟国の閣僚会議(ロシア・サンクトペテルブルク)			
	16:30	独	7月 速報値	マークイット/BMEドイツ製造業PMI
	17:00	欧	7月 速報値	マークイット ユーロ圏製造業PMI
	17:00	欧	7月 速報値	マークイット ユーロ圏コンポジットPMI
	22:45	米	7月 速報値	マークイット米国製造業PMI
	23:00	米	6月	中古住宅販売件数
7月25日	米連邦公開市場委員会(FOMC、～26日)			
	8:50	日		日銀金融政策決定会合議事要旨(6/15・16)
	17:00	独	7月	IFO企業景況感指数
	22:00	米	5月	FHFA住宅価格指数(前月比)
	22:00	米	5月	S&P/ケースラー住宅価格指数
	23:00	米	7月	コンファレンスボード消費者信頼感
7月26日	マナフォート氏とトランプ・ジュニア氏、米上院司法委員会の公聴会で証言			
	10:30	豪	第2四半期	CPI(前期比)
	10:30	日		中曾日銀副総裁、発言
	12:05	豪		ロウRBA総裁、発言
	17:30	英		GDP(前期比)
	20:00	米		MBA住宅ローン申請指数
	23:00	米	6月	新築住宅販売件数
	3:00	米		FOMC政策金利
7月27日	15:00	独	8月	GfK消費者信頼感
	21:30	米	6月 速報値	耐久財受注(前月比)
	21:30	米		新規失業保険申請件数
	21:30	米	6月 速報値	卸売在庫(前月比)
	23:00	米		クオールズ次期FRB副議長の指名承認公聴会
7月28日	8:30	日	6月	失業率
	8:30	日	6月	有効求人倍率
	8:30	日	6月	全国CPI(前年比)
	8:50	日		金融政策決定会合における主な意見(7/19・20)
	18:00	欧	7月 確報値	消費者信頼感
	21:00	独	7月 速報値	消費者物価指数(前年比)
	21:30	米		GDP(年率/前期比)
	21:30	米	第2四半期	雇用コスト指数
	23:00	米	7月 確報値	ミシガン大学消費者マインド
	2:20	米		カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、発言



IV. IMM投機勘定

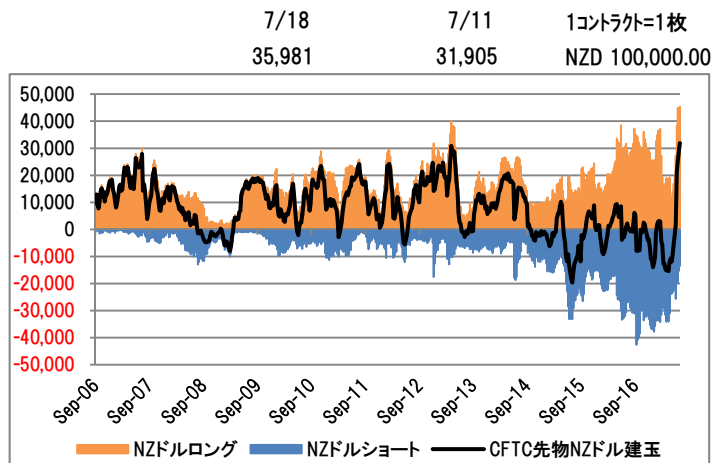
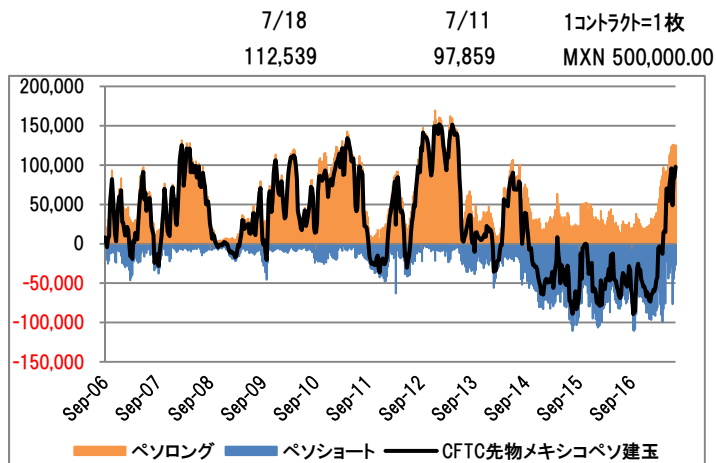
- ★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。
- ★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。
- ★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



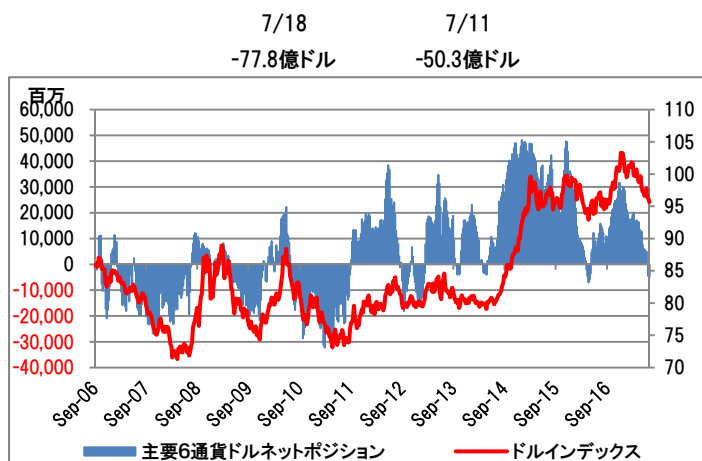


IV. IMM投機勘定

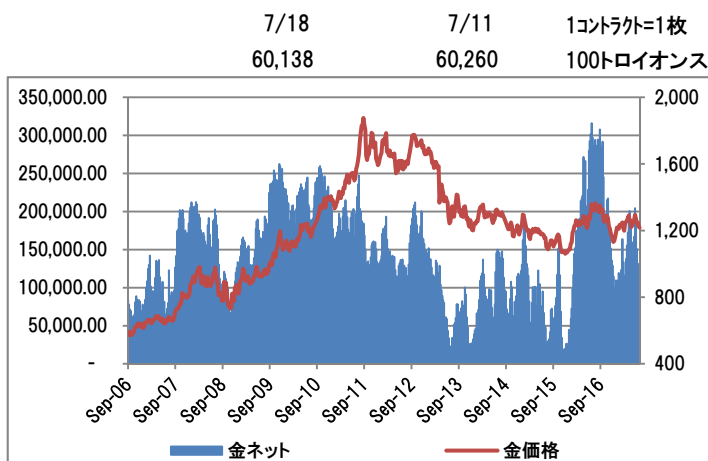
- ★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。
- ★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。
- ★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



★対8通貨のドルネットポジションとドルインデックス



★COMEX金投機筋ネットポジションと金価格の推移



- ・この資料の無断での複製、転写、転載、改竄または配布は、禁止されています。
- ・この資料は、情報の提供を唯一の目的としたもので、特定の金融商品取引の投資勧誘・奨励を目的としたものではありません。
- ・金融商品取引を検討される場合には、別途当該金融商品の資料を良くお読みいただき、充分にご理解されたうえで、ご自身の判断と責任においてお取引をなさるようお願いいたします。
- ・金融商品によっては所定の手数料等をご負担いただく場合があります、また金融商品によっては証拠金や担保をご提供いただく場合があります。なお、具体的な金融商品が定まっていないため、現時点では手数料・証拠金・担保等の額または計算方法およびその比率をお示しすることはできません。
- ・金融商品によっては、金利水準、為替相場、株式相場等の金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により、お客様に損失が生じることがあり、またこの損失がお客様からご提供いただいた証拠金・担保(もしあれば)の額を上回るおそれがあります。
- ・商号等/株式会社新生銀行 登録金融機関/関東財務局長(登金)第10号
加入協会/日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会